

# アンケート調査報告書

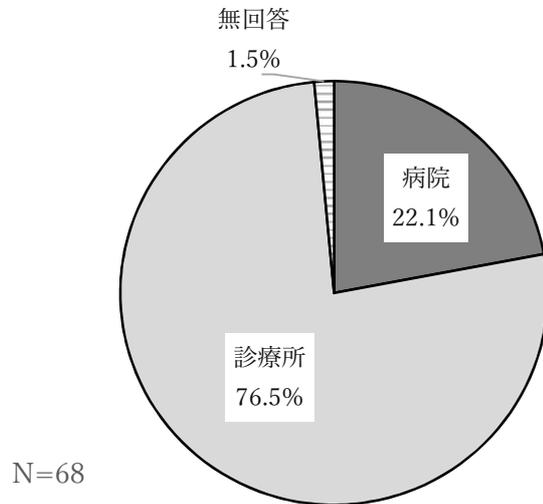
【精神科、心療内科、小児科  
のある病院及び診療所】

---

【A 貴院及び調査票ご記入者についてお聞きします】

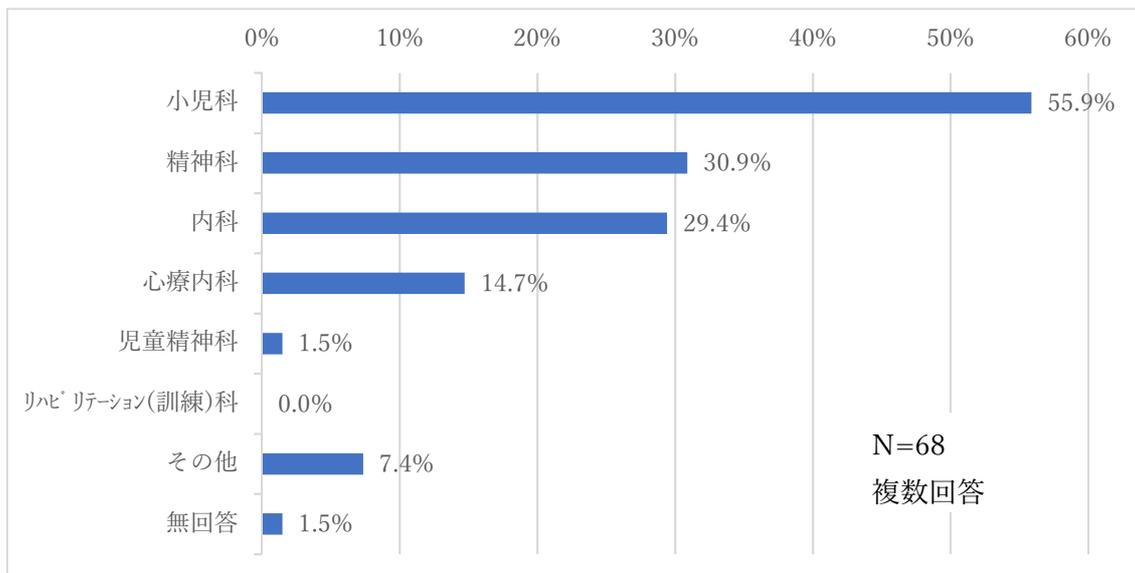
問1 貴院の種別について、お答えください。

種別は、「病院」(22.1%)、「診療所」(76.5%)となっている。



問2-1 本調査票を記入されている方ご自身の所属科について、お答えください。

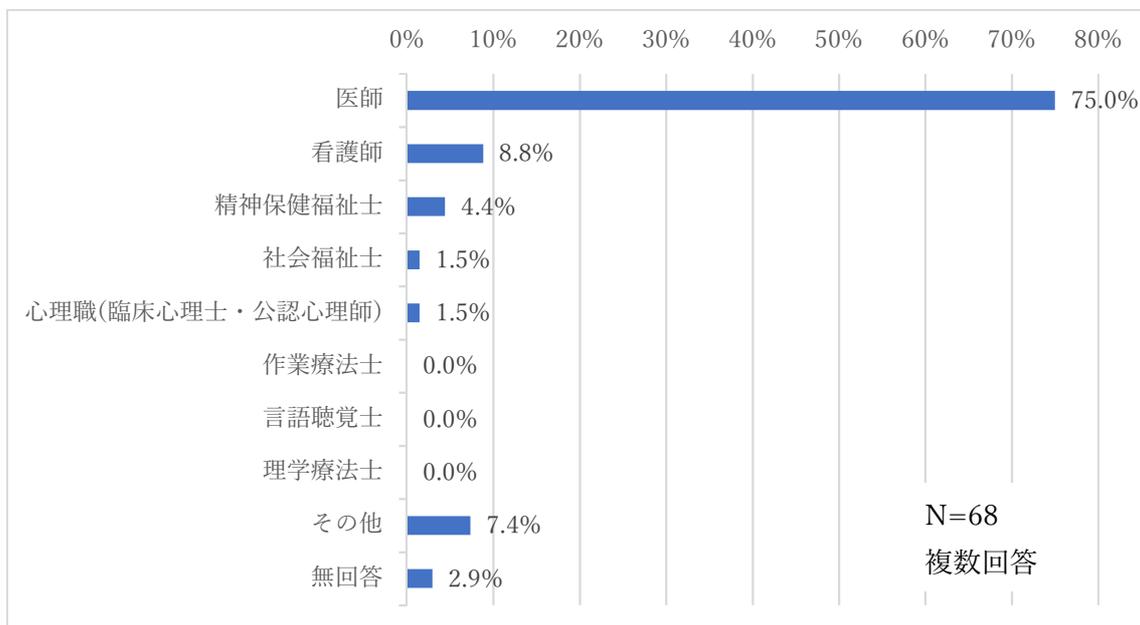
所属科は、「小児科」(55.9%)が最も多く、次いで「精神科」(30.9%)、「内科」(29.4%)となっている。



(その他) 小児神経内科、地域医療連携室、事務科

問2-2 本調査票を記入されている方ご自身の職種について、お答えください。

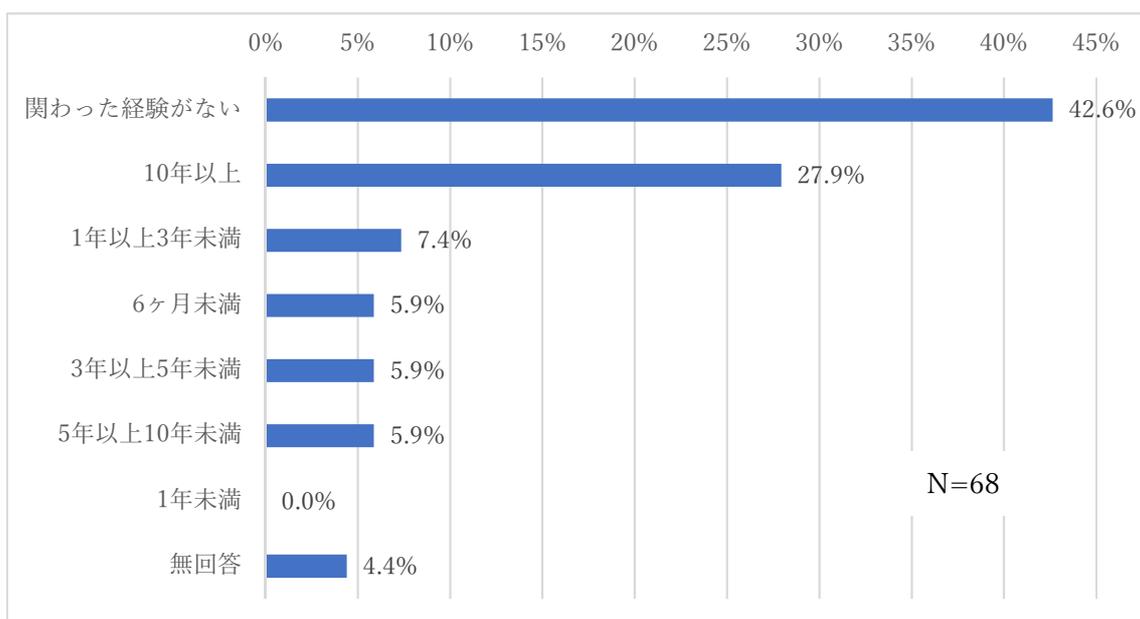
職種は、「医師」(75.0%)が最も多く、次いで「看護師」(8.8%)、「精神保健福祉士」(4.4%)となっている。



(その他) 事務員

問2-3 本調査票を記入されている方ご自身の発達障害児者の支援に関わった経験年数について、お答えください。

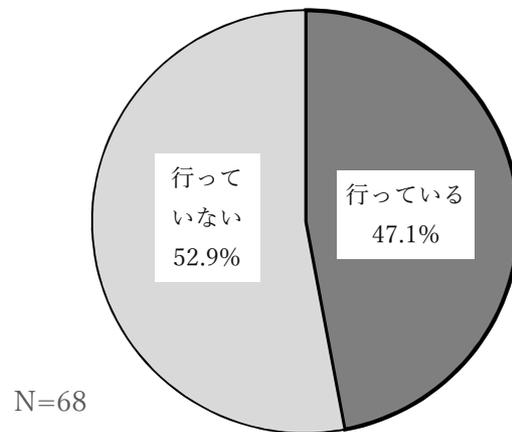
発達障害児者の支援に関わった経験年数は、「関わった経験がない」(42.6%)が最も多く、次いで「10年以上」(27.9%)、「1年以上3年未満」(7.4%)となっている。



【B 発達障害児者の診療について伺います】

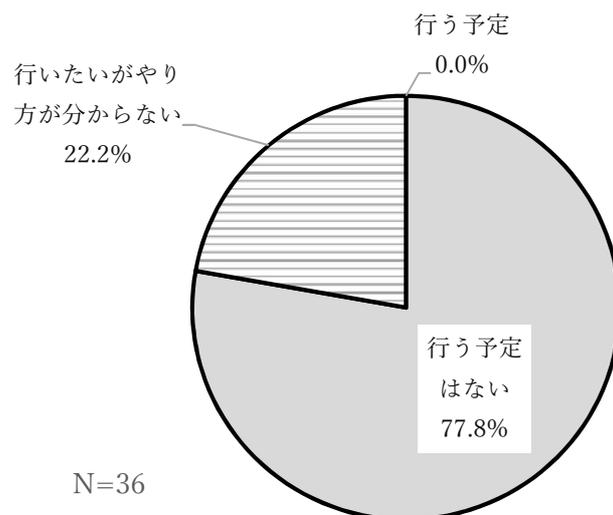
問3 貴院では、発達障害児者の診療を行っていますか。

発達障害児者の診療を行っているかについては、「行っている」(47.1%)、「行っていない」(52.9%)となっている。



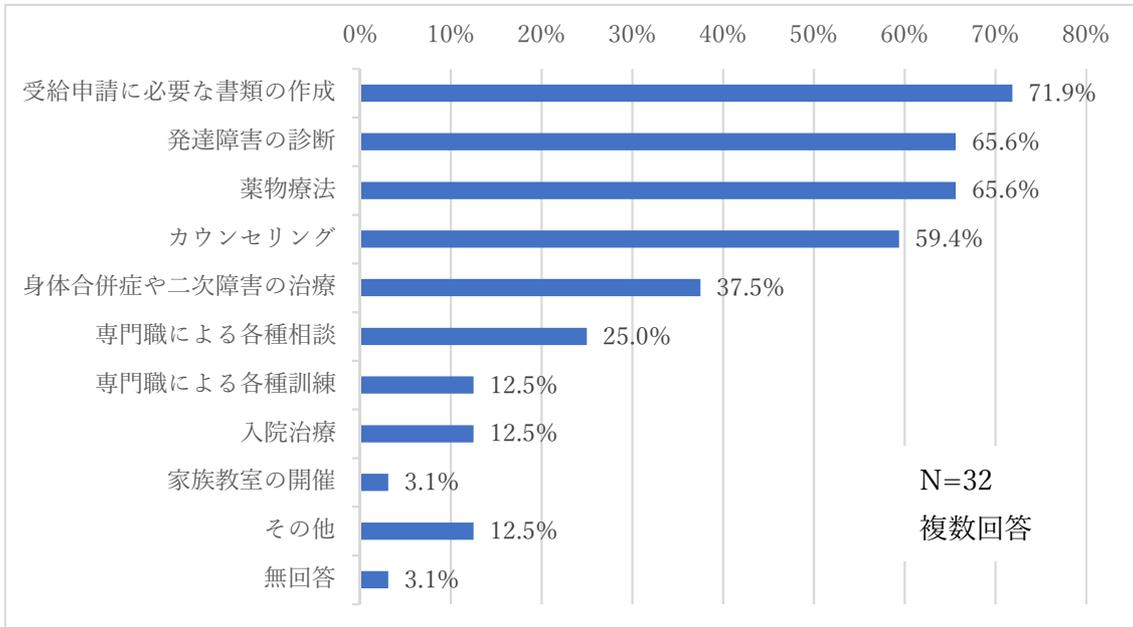
副問3-1 問3で「行っていない」と答えた方におたずねします。貴院では今後、発達障害児者の診療を行う予定はありますか。

発達障害児者の診療を行う予定については、「行う予定はない」(77.8%)、「行いたいやり方が分からない」(22.2%)となっている。



問4 発達障害児者に対する診療等の内容について、あてはまるものをすべて選んでください。

発達障害児者に対する診療等の内容は、「受給申請に必要な書類の作成」(71.9%)が最も多く、次いで「発達障害の診断」・「薬物療法」(65.6%)となっている。

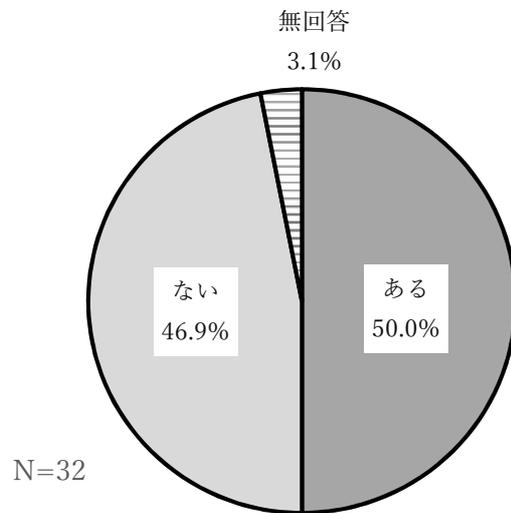


(その他)

- ・特別支援学校、本城リサイクル工房への定期訪問相談。
- ・身体合併症や二次障害の治療について、身体合併症は診ていない。障害者手帳や年金等の受給申請に必要な書類(診断書等)の作成について、年金については書いていない。
- ・日常診療や乳幼児健診で気になる子どもを専門機関に紹介する。
- ・急性疾患治療、予防接種
- ・過去に依頼されて処方医をしていた、発達障害疑いは専門機関へ紹介する。

問5 担当医は発達障害に関する専門研修等を受けたことがありますか。

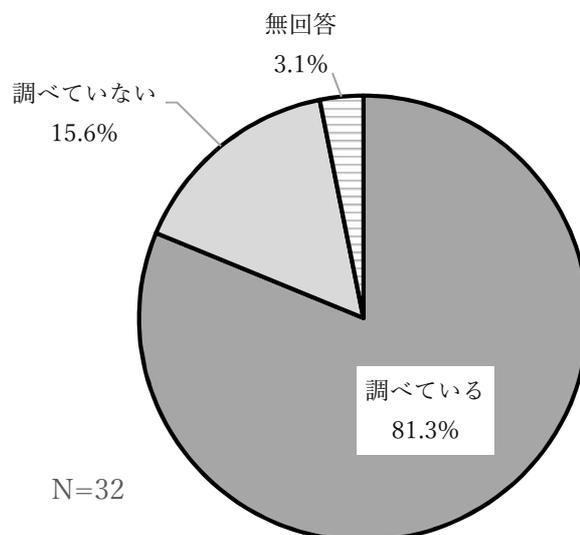
専門研修等を受けたことがあるかについては、「ある」(50.0%)、「ない」(46.9%)となっている。



【C 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その① 特性の理解)】

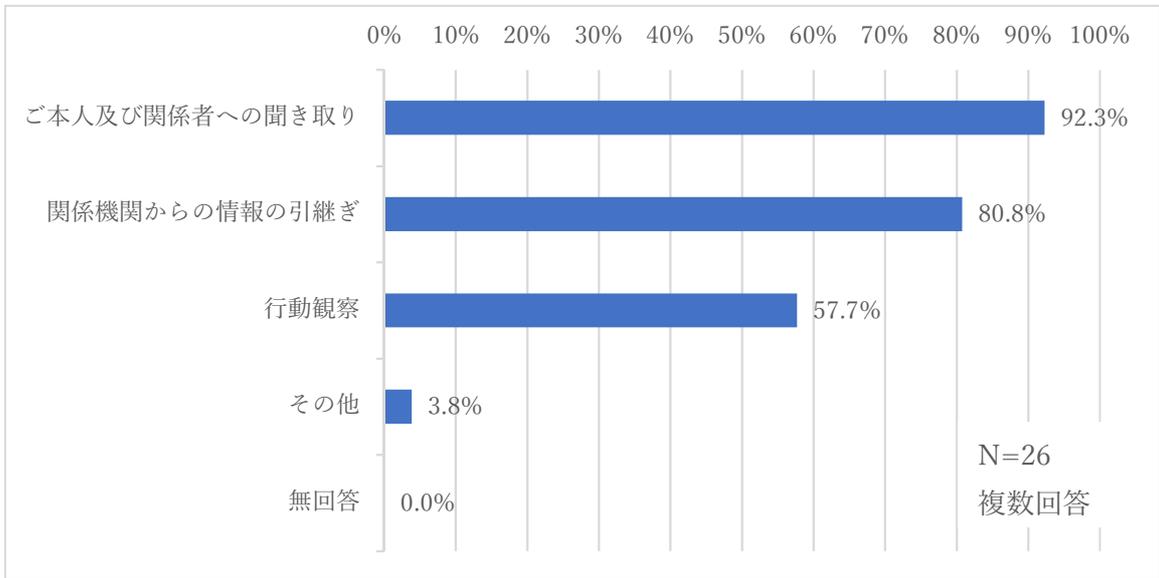
問6 貴院では、発達障害に伴う「感じ方(感覚)」や「まわりのことへの理解の仕方」「自分の気持ちの表し方」「相手の気持ちの理解の仕方」「行動パターン」など(以下、このアンケートでは「障害特性」と記載)にどのような特徴があるか、専門職の人などが調べていますか。

専門職の人が調べているかについては、「調べている」(81.3%)、「調べていない」(15.6%)となっている。



副問6-1 問6で「調べている」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を調べていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

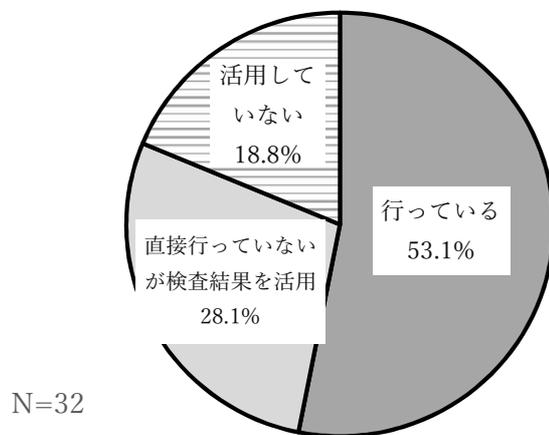
どのように障害特性を調べているかについては、「ご本人及び関係者への聞き取り」(92.3%)が最も多く、次いで「関係機関からの情報の引継ぎ」(80.8%)、「行動観察」(57.7%)となっている。



(その他) 心理検査等

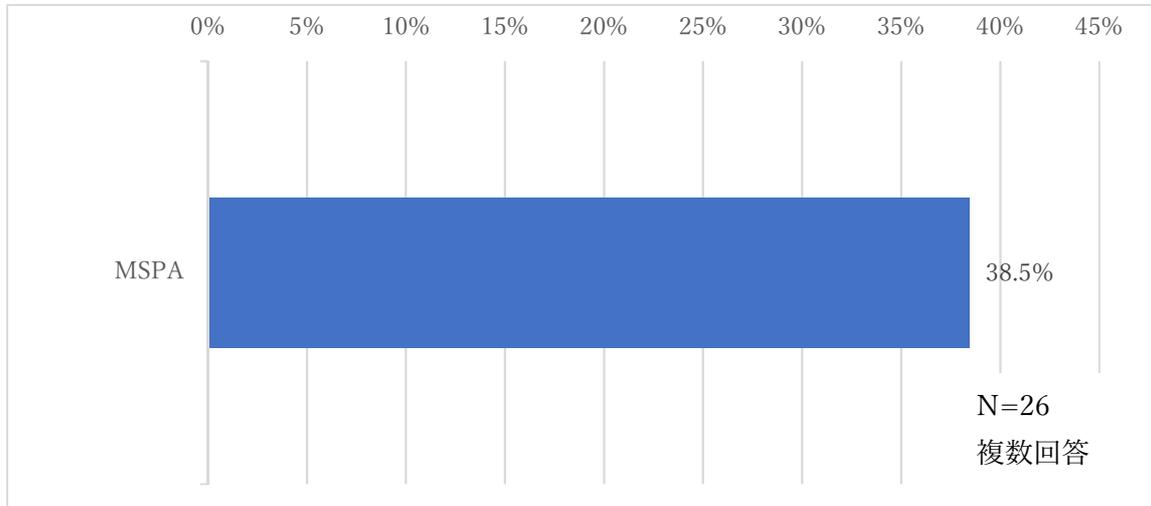
問7 貴院では、発達障害について心理学的な検査を行い、支援に活用していますか。

心理学的な検査を行い、支援に活用しているかについては、「行っている」(53.1%)、「直接行っていないが検査結果を活用している」(28.1%)、「活用していない」(18.8%)となっている。

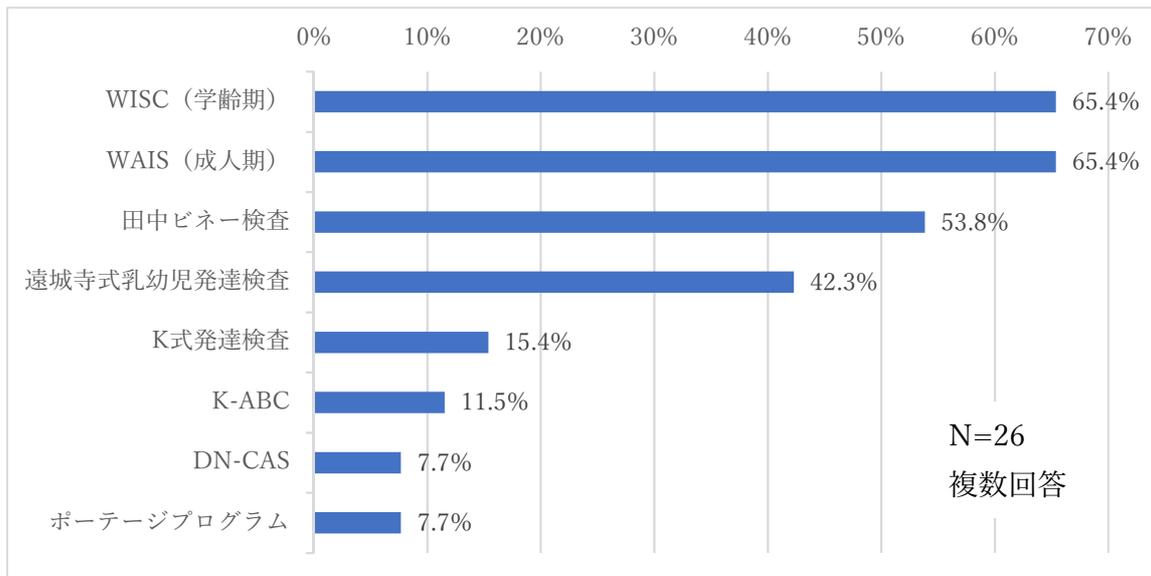


副問7-1 問7で「行っている」「直接行っていないが検査結果を活用している」と答えた方におたずねします。どのような検査を活用していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

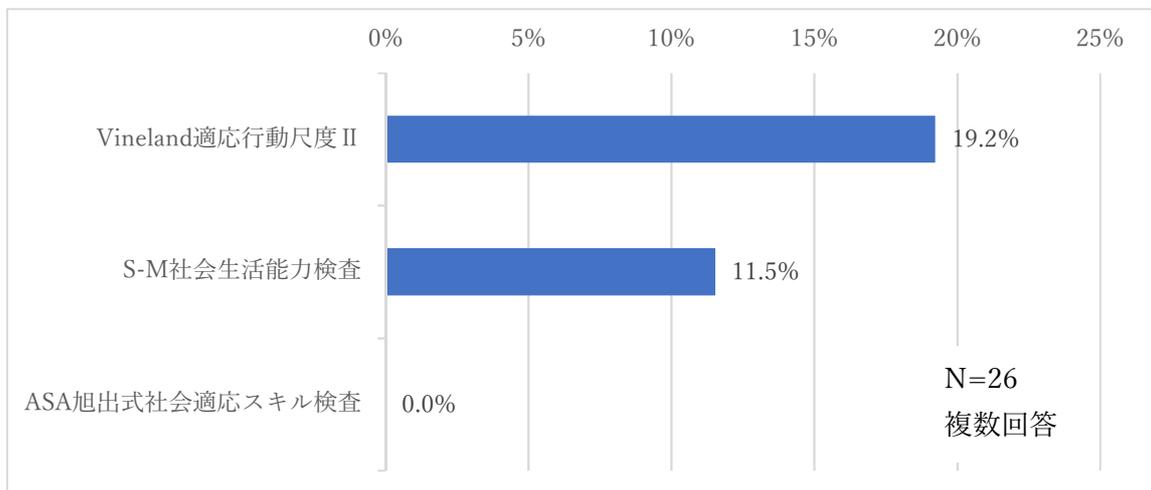
① 日常生活における困難と要支援度の評価



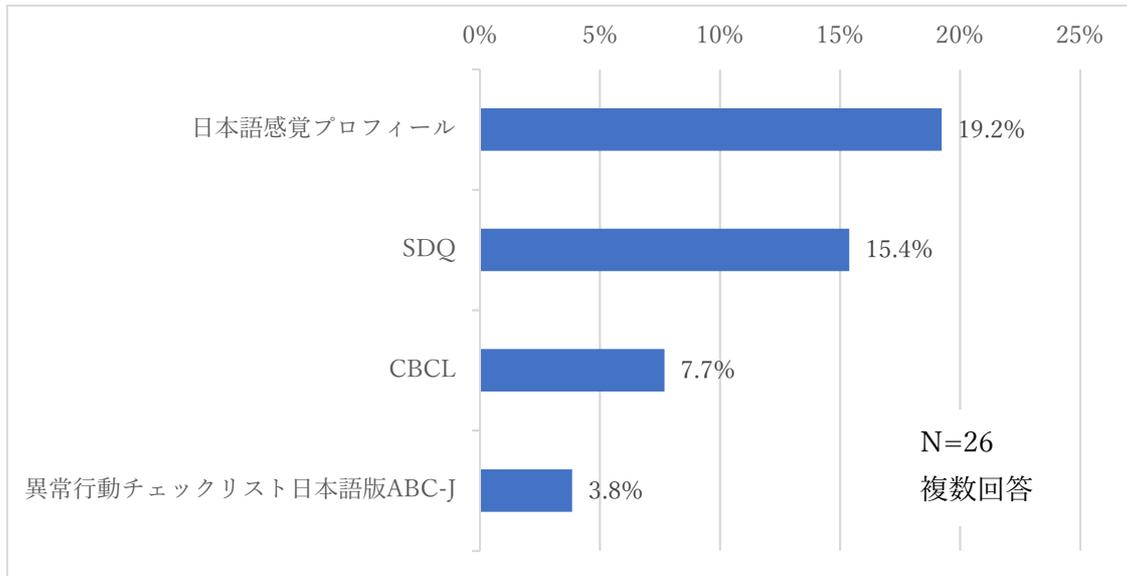
② 知能検査・発達検査



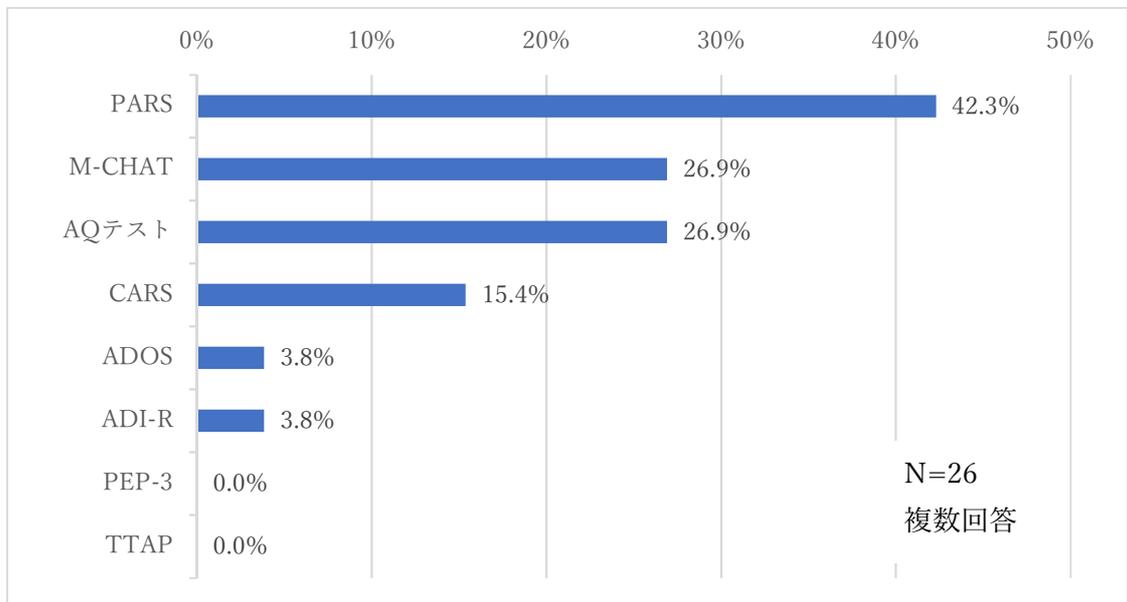
③ 適応行動（生活能力）のアセスメント



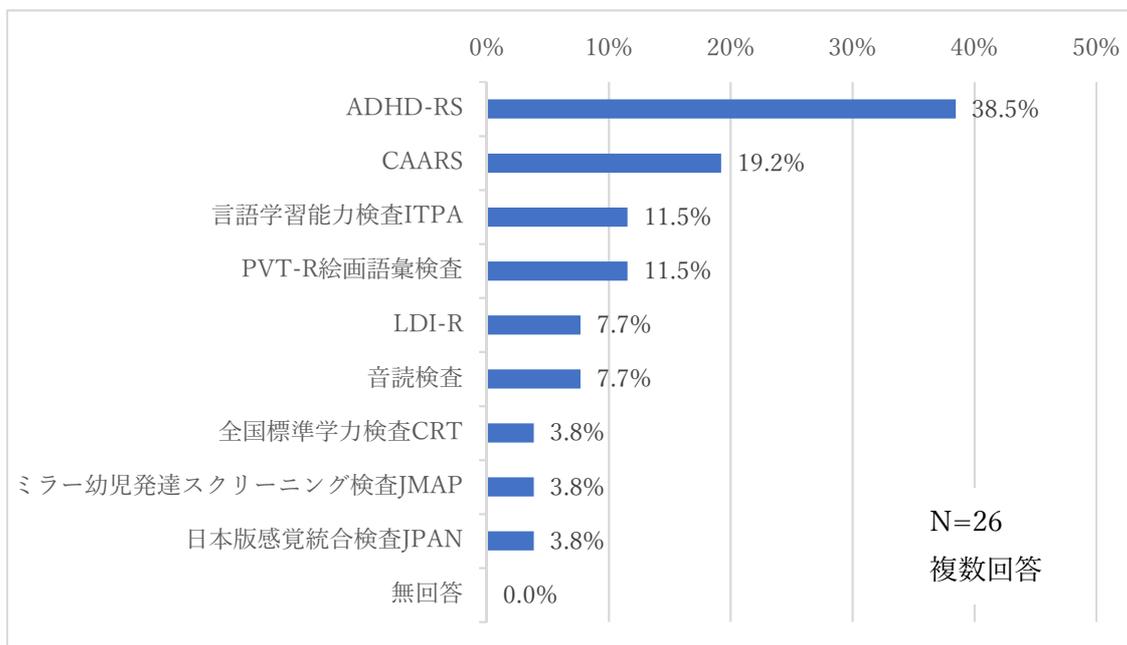
④ 情緒と行動のアセスメント



⑤ 自閉症スペクトラムのアセスメント



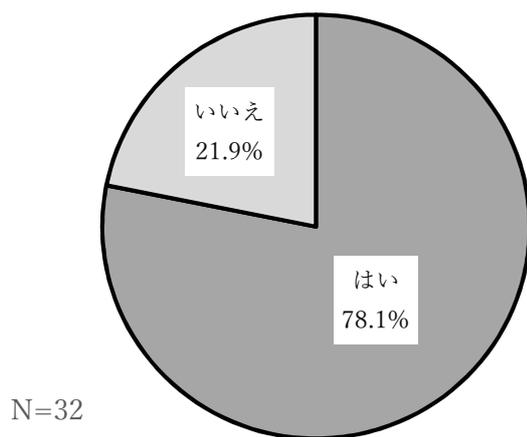
⑥ その他のアセスメント



【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その② 日常生活について)

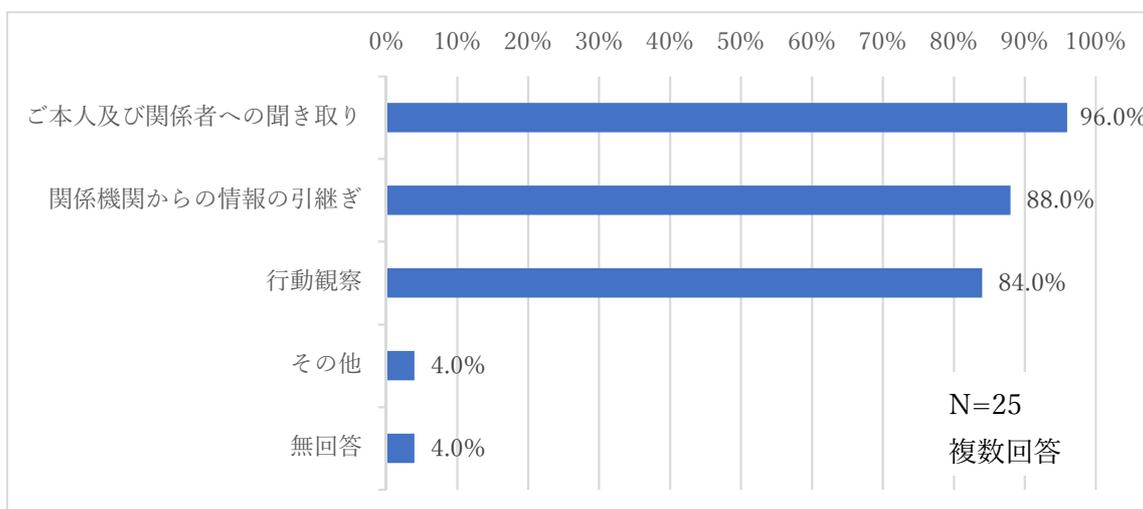
問8 貴院では、発達障害のある人が日常生活を送る上で特に配慮が必要な障害特性について、具体的に把握していますか。

障害特性を把握しているかについては、「はい」(78.1%)、「いいえ」(21.9%)となっている。



副問8-1 問8で「はい」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を把握していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

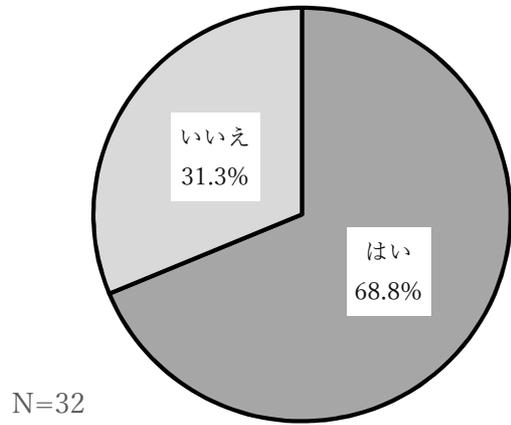
どのように障害特性を把握しているかについては、「ご本人及び関係者への聞き取り」(96.0%)が最も多く、次いで「関係機関からの情報の引継ぎ」(88.0%)、「行動観察」(84.0%)となっている。



(その他) 専門医療機関から紹介されて、可能な場合のみ

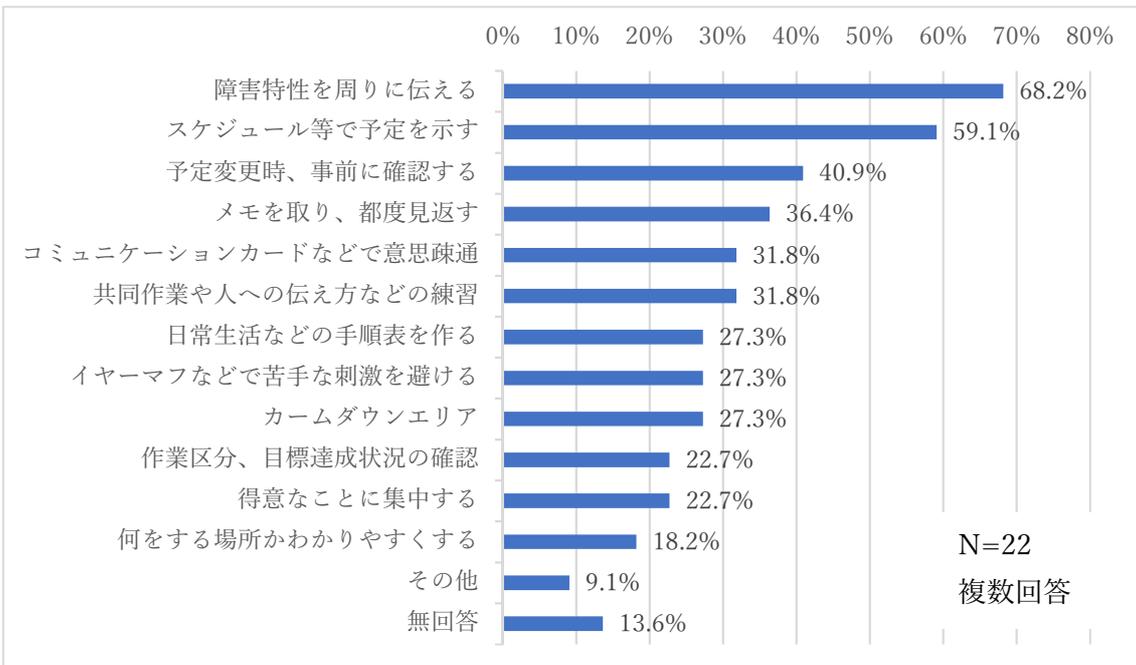
問9 貴院では、発達障害のある人が日常生活を送る上で特に配慮が必要な障害特性に対して何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(68.8%)、「いいえ」(31.3%)となっている。



副問9-1 問9で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。該当するものをすべて選んでください。

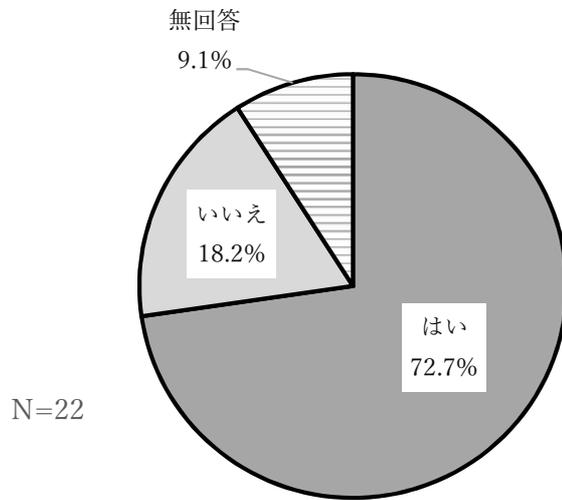
どのような「手立て」を講じているかについては、「障害特性を周りに伝える」(68.2%)が最も多く、次いで「スケジュール等で予定を示す」(59.1%)、「予定変更時、事前に確認する」(40.9%)となっている。



(その他) 上記の事が自宅で行えるように、母親、本人の指導を行っている。  
不安の強い子や集団が苦手な子は、個室で診察をする。

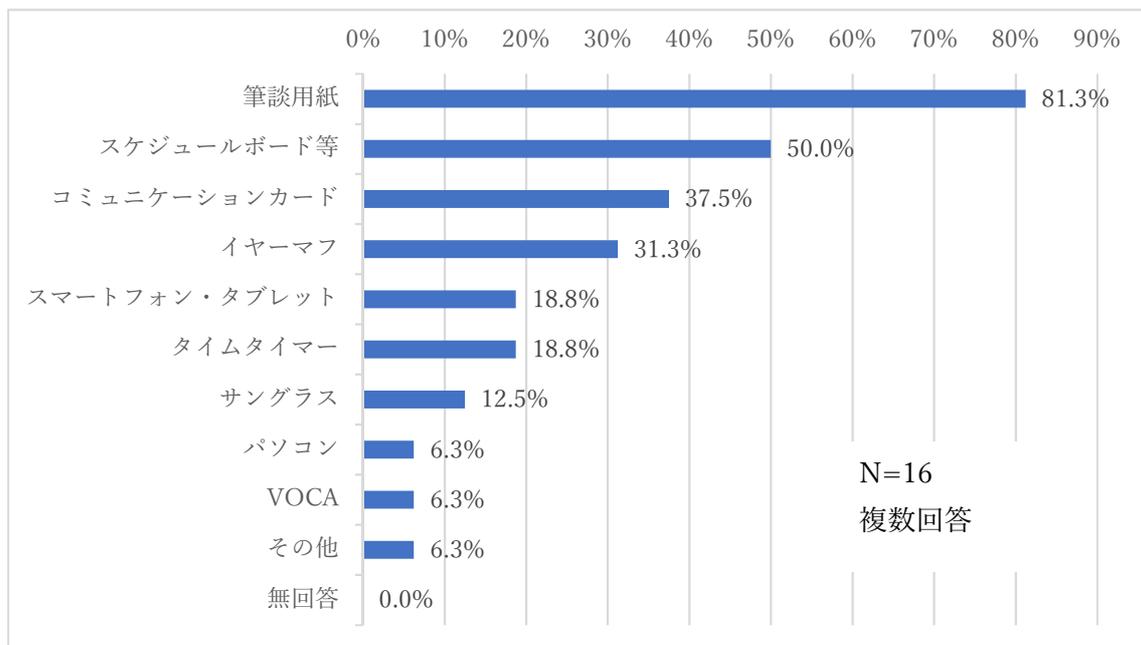
副問9-2 問9で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(72.7%)、「いいえ」(18.2%)となっている。



副問9-2-1 副問9-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

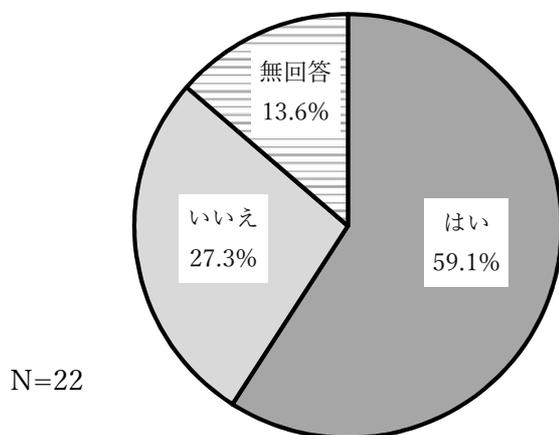
どのようなツールを使っているかについては、「筆談用紙」(81.3%)が最も多く、次いで「スケジュールボード等」(50.0%)、「コミュニケーションカード」(37.5%)となっている。



(その他) 上記のものを日常生活で使用するよう母親、本人に指導している。

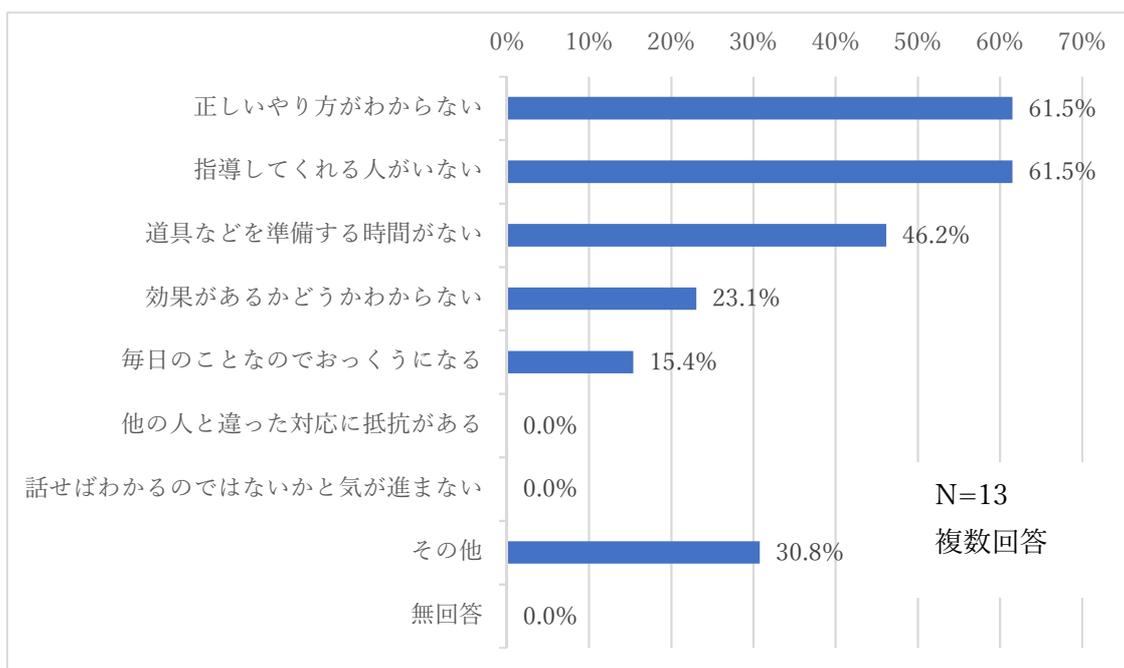
副問9-3 問9で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(59.1%)、「いいえ」(27.3%)となっている。



副問9-3-1 副問9-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「正しいやり方がわからない」・「指導してくれる人がいない」(61.5%)が最も多く、次いで「道具などを準備する時間がない」(46.2%)となっている。



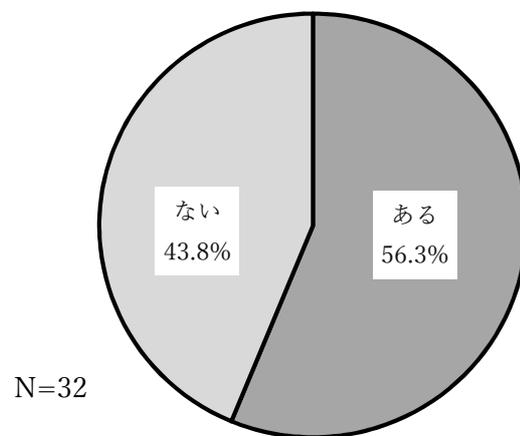
(その他)

- ・ 患児の発達特性に対する母親の理解が不十分な場合は、指導に必要な十分な情報が母親から得られなかったり、指導しても適切に実行してもらえないことがある。
- ・ 手立てを講じてても行動障害のコントロールが難しいケースが多い。
- ・ アドバイスしても、アドバイス通り行動しないケースが多い。
- ・ 一般診療の中では、時間的、技術的に難しい。

【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その③ 支援体制について)】

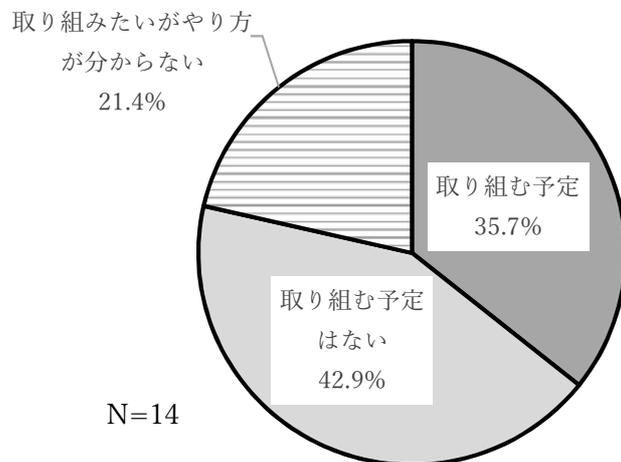
問10 貴院では、発達障害のある人が日常生活を送るうえで必要な手立てについて、医療・福祉・教育・雇用(労働)などの身近な支援者と一緒に取り組んだことがありますか。

身近な支援者と一緒に取り組んだことがあるかについては、「ある」(56.3%)、「ない」(43.8%)となっている。



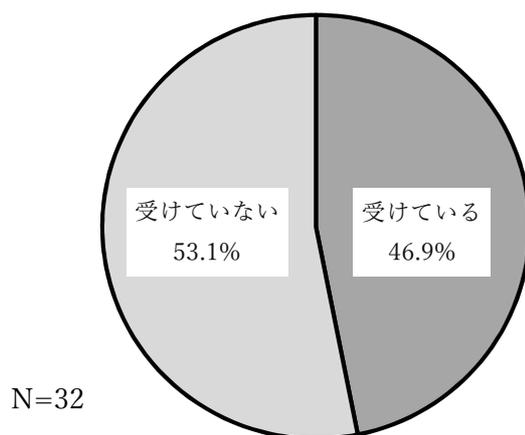
副問10-1 問10で「ない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

今後の予定については、「取り組む予定」(35.7%)、「取り組む予定はない」(42.9%)、「取り組みたいがやり方が分からない」(21.4%)となっている。



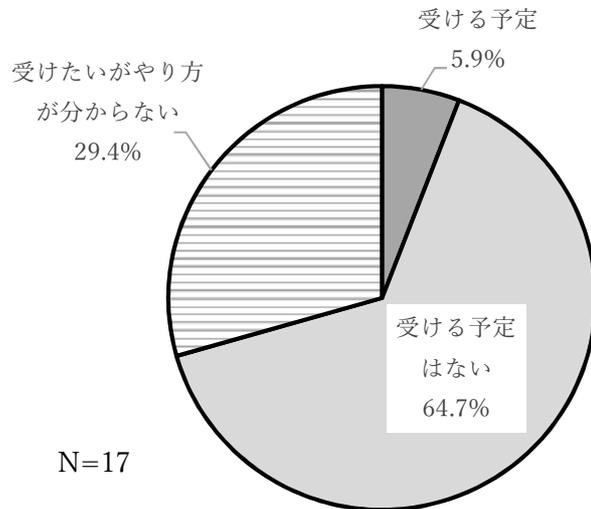
問11 専門機関（病院、発達障害者支援センターつばさ、障害者基幹相談支援センター、子ども総合センター等）から、助言や指導を受けていますか。

助言や指導を受けているかについては、「受けている」(46.9%)、「受けていない」(53.1%)となっている。



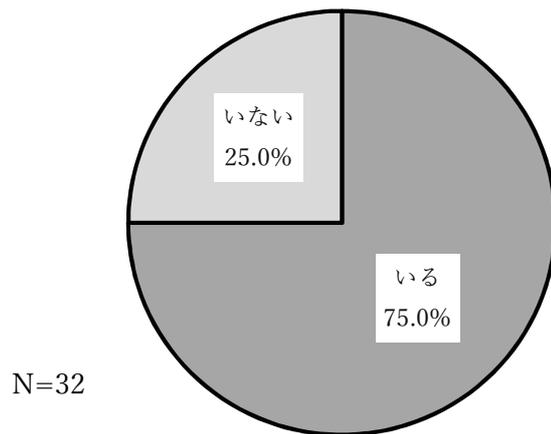
副問11-1 問11で「受けていない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

今後の予定については、「受ける予定」(5.9%)、「受ける予定はない」(64.7%)、「受けたいがやり方が分からない」(29.4%)となっている。



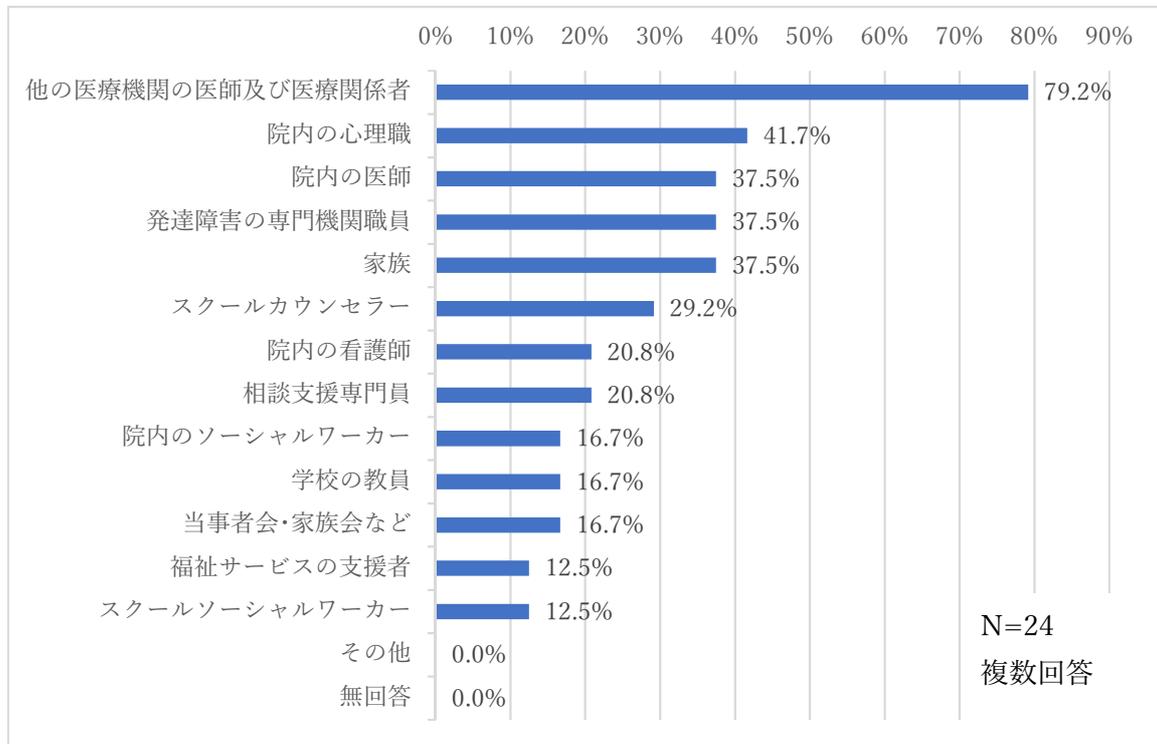
問12 発達障害のある人を支援する上で、困ったときに頼れる相談相手はいますか。

頼れる相談相手がいるかについては、「いる」(75.0%)、「いない」(25.0%)となっている。



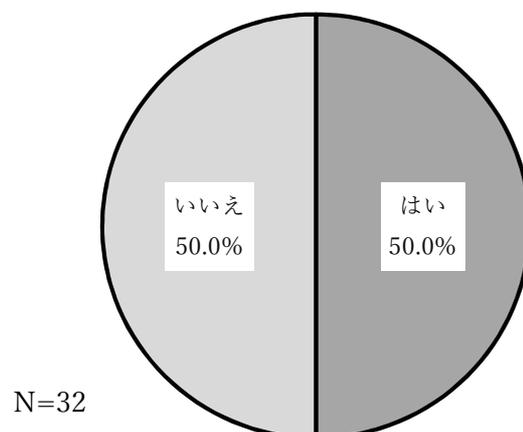
副問1 2-1 問1 2で「いる」と答えた方におたずねします。主な相談相手は誰ですか。  
当てはまるものをすべて選んでください。

相談相手については、「他の医療機関の医師及び医療関係者」(79.2%)が最も多く、次いで「院内の心理職」(41.7%)、「院内の医師」・「発達障害の専門機関職員」・「家族」(37.5%)となっている。



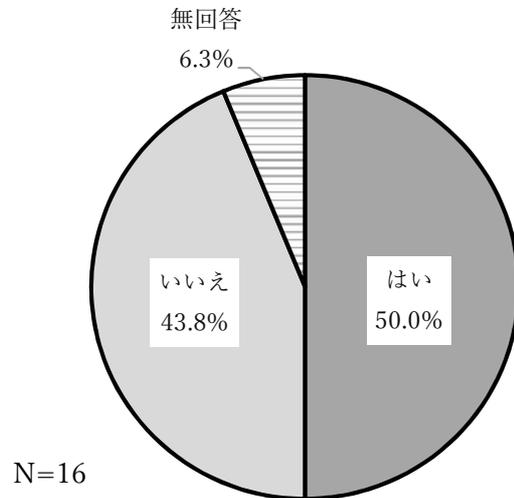
問1 3 貴院では、発達障害のある人を支援するための個別の支援計画づくりに参画、あるいは情報提供したことがありますか。

支援計画づくりに参画、あるいは情報提供したことがあるかについては、「はい」・「いいえ」(50.0%)となっている。



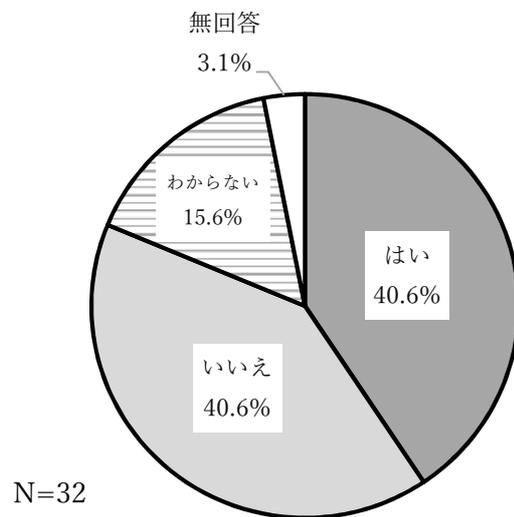
副問13-1 問13で「はい」と答えた方におたずねします。渡した情報がどう使われたか、フィードバックはありましたか。

フィードバックがあったかについては、「はい」(50.0%)、「いいえ」(43.8%)となっている。



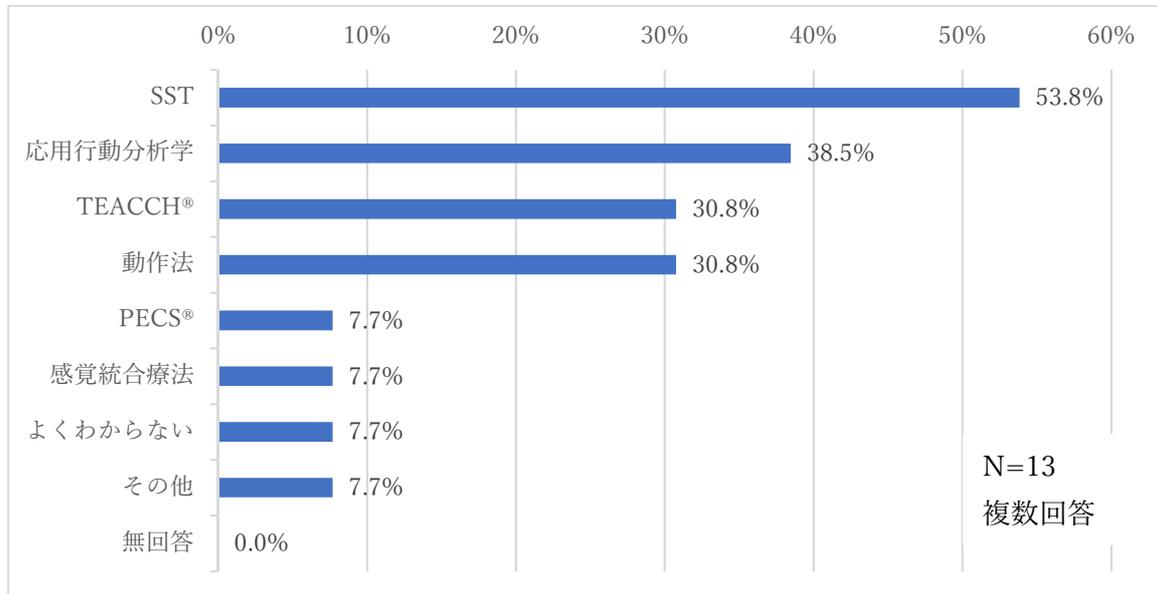
問14 貴院では、発達障害のある人の支援に専門的な手法を取り入れていますか。

専門的な手法を取り入れているかについては、「はい」・「いいえ」(40.6%)、「わからない」(15.6%)となっている。



副問14-1 問14で「はい」と答えた方におたずねします。どのような手法を取り入れていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

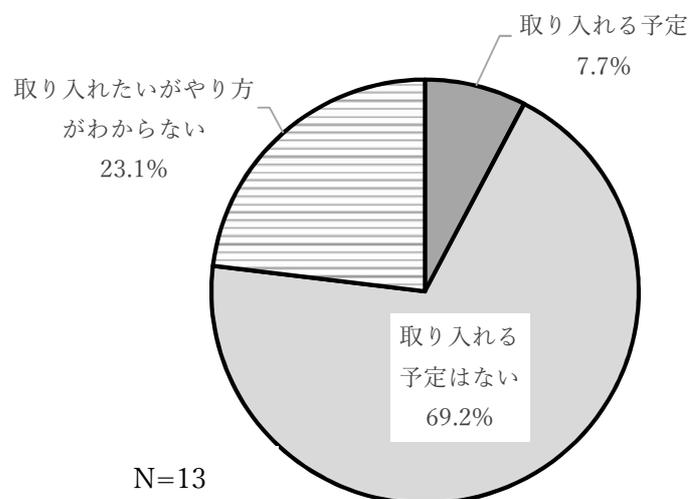
どのような手法を取り入れているかについては、「SST」(53.8%)が最も多く、次いで「応用行動分析学」(38.5%)、「TEACCH®」・「動作法」(30.8%)となっている。



(その他) 上記手法を部分的に取り入れている (例えば構造化SSTなど)

副問14-2 問14で「いいえ」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

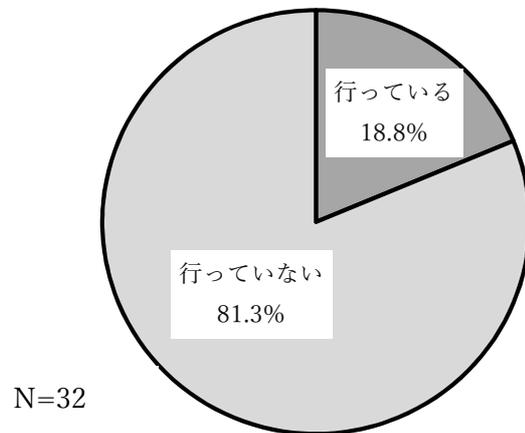
今後の予定については、「取り入れる予定」(7.7%)、「取り入れる予定はない」(69.2%)、「取り入れたいがやり方が分からない」(23.1%)となっている。



【E 強度行動障害のある人への支援について伺います (その① 日頃の対応について)】

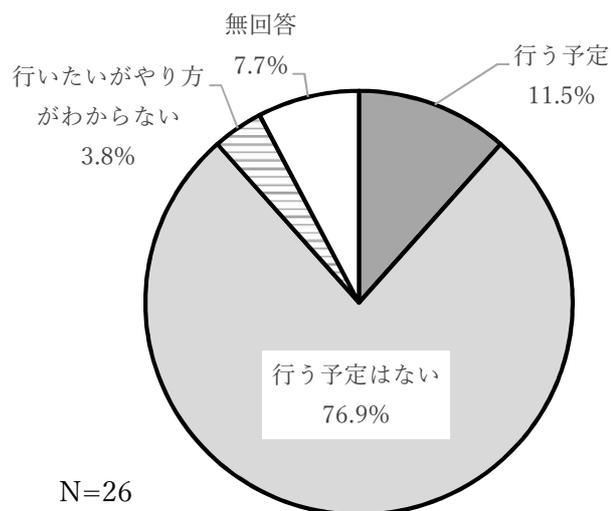
問15 貴院では、強度行動障害のある人の診療を行っていますか。

強度行動障害のある人の診療を行っているかについては、「行っている」(18.8%)、「行っていない」(81.3%)となっている。



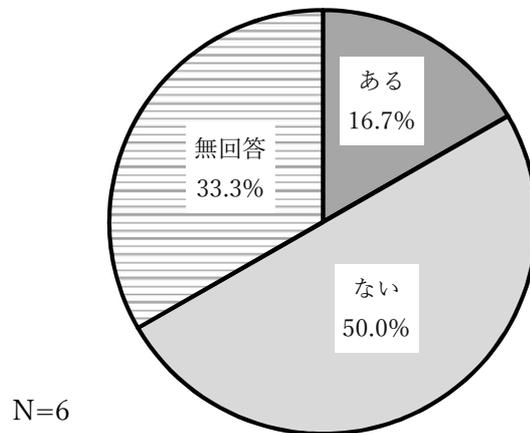
副問15-1 問15で「診療を行っていない」と答えた方におたずねします。今後、診療を行う予定はありますか。

今後、診療を行う予定があるかについては、「行う予定」(11.5%)、「行う予定はない」(76.9%)、「行いたいやり方が分からない」(3.8%)となっている。



問16 入院病床のある病院のみご回答ください。貴院には、強度行動障害のある人の入院に対応できる病床はありますか。

入院に対応できる病床があるかについては、「ある」(16.7%)、「ない」(50.0%)となっている。



副問16-1 問16で「ある」と答えた方におたずねします。令和2年度に診療等のために入院した強度行動障害のある人の年間入院実患者数と平均入院期間を教えてください。

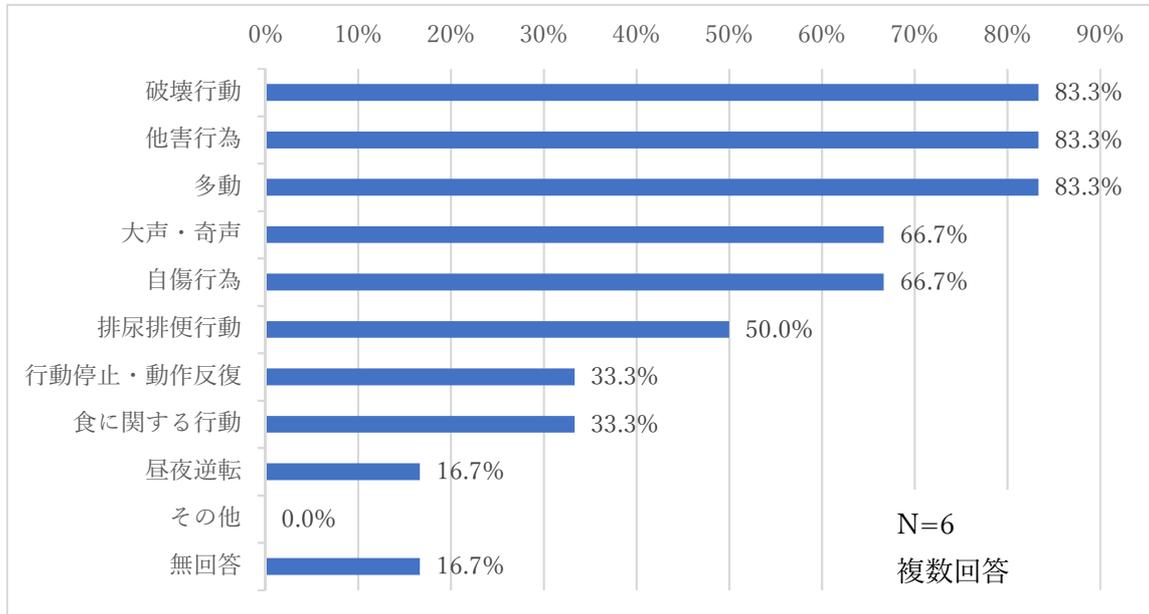
回答は1件のみで、強度行動障害のある人の年間入院実患者数は「3人」、平均入院期間は「180日」であった。

副問16-2 問16で「ある」と答えた方におたずねします。副問16-1のうち、保護室で対応した人の実患者数と平均の保護室対応期間を教えてください。

回答は1件のみで、保護室で対応した実患者数は「3人」、平均の保護室対応期間は「120日」であった。

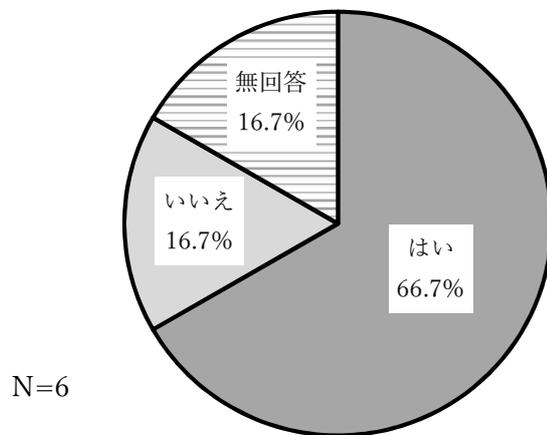
問17 強度行動障害のある人を支援するにあたり、障害特性があるために起きる行動で困っていることは何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

行動で困っていることについては、「破壊行動」・「他害行為」・「多動」(83.3%)が最も多く、次いで「大声・奇声」・「自傷行為」(66.7%)となっている。



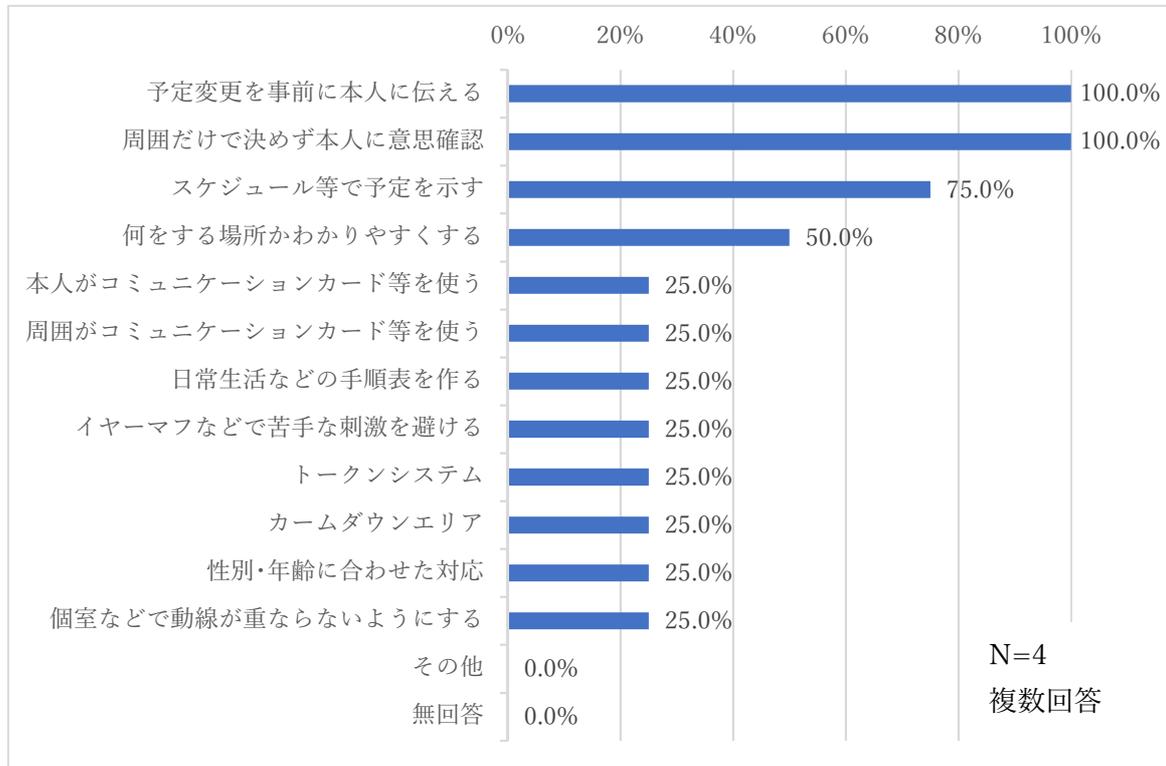
問18 貴院では、強度行動障害のある人の日常生活を支えるために、特に配慮が必要な障害特性に対して何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(66.7%)、「いいえ」(16.7%)となっている。



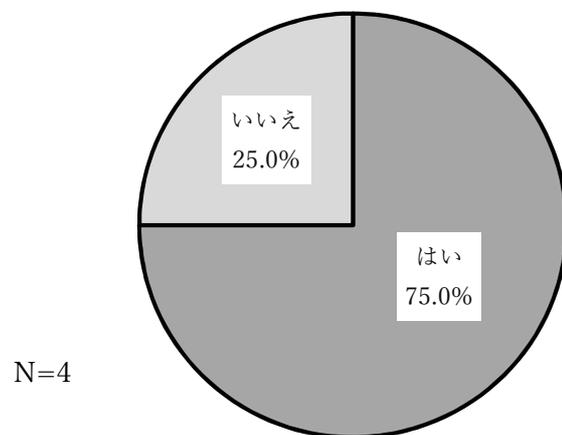
副問18-1 問18で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような「手立て」を講じているのかについては、「予定変更を事前に本人に伝える」・「周囲だけで決めず本人に意思確認」(100.0%)が最も多く、次いで「スケジュール等で予定を示す」(75.0%)となっている。



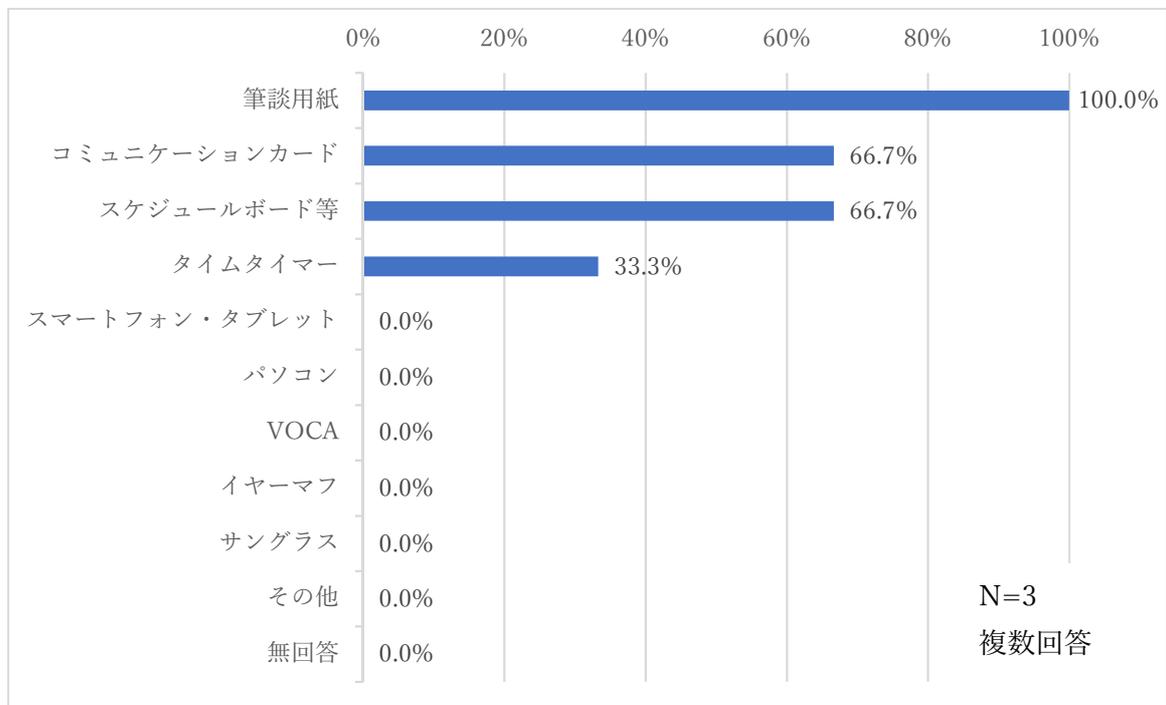
副問18-2 問18で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているのかについては、「はい」(75.0%)、「いいえ」(25.0%)となっている。



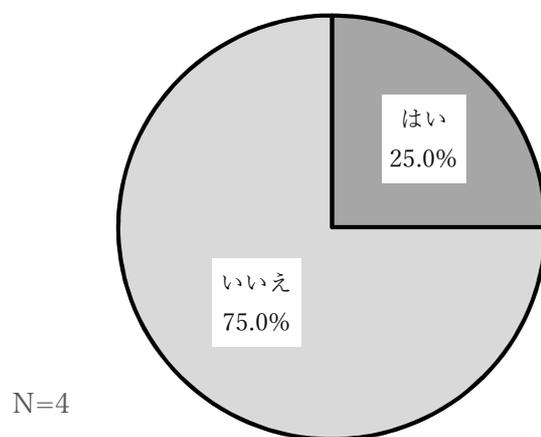
副問18-2-1 副問18-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。ご本人と一緒に使うもの、またはご本人が自分で使うものについて、当てはまるものをすべて選んでください。

どのようなツールを使っているかについては、「筆談用紙」(100.0%)が最も多く、次いで「コミュニケーションカード」・「スケジュールボード等」(66.7%)となっている。



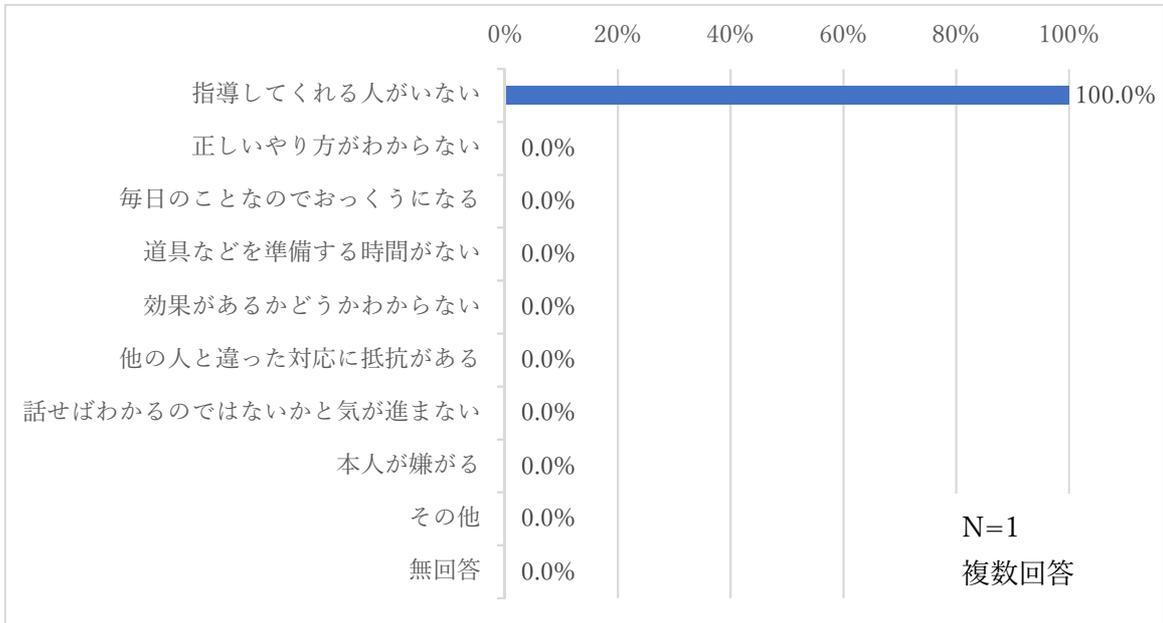
副問18-3 問18で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(25.0%)、「いいえ」(75.0%)となっている。



副問 18-3-1 副問 18-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに  
 難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

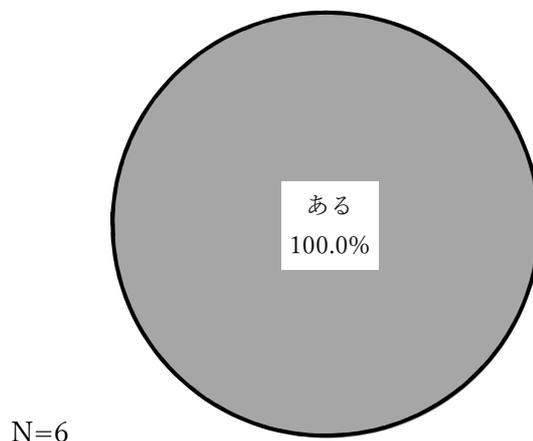
どのようなことに難しさを感じるかについては、「指導してくれる人がいない」(100.0%)  
 となっている。



【E 強度行動障害のある人への支援について伺います (その②) パニックへの対応につ  
 いて)】

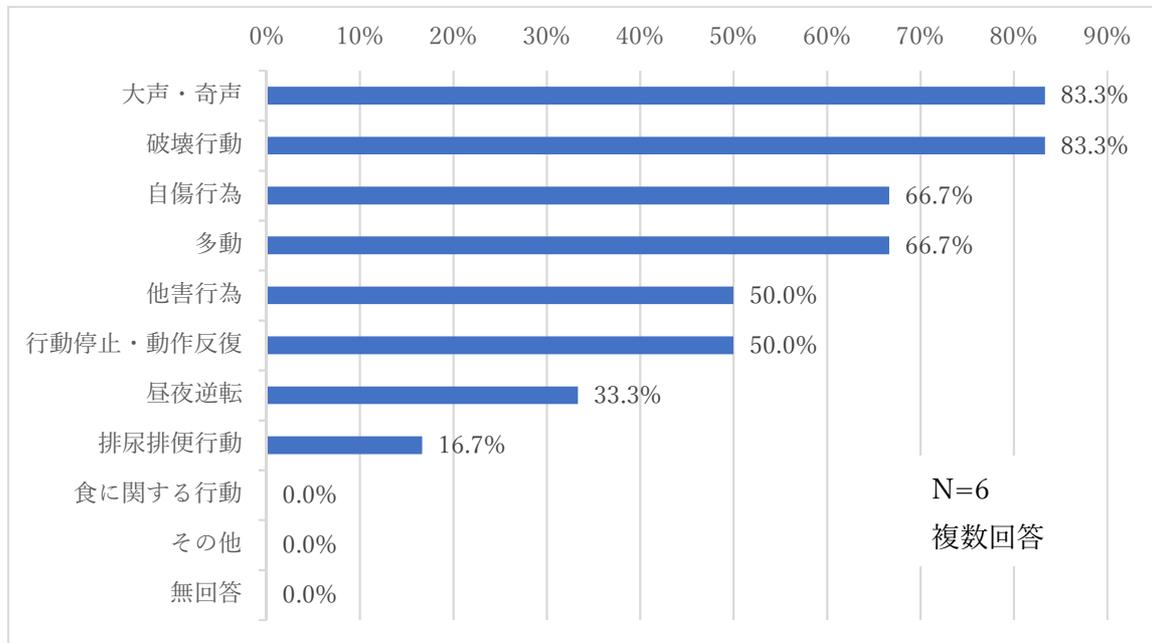
問 19 強度行動障害のある人の状態が悪化して、危機的な状況 (パニック) になったと  
 きのことを伺います。過去 1 年間に、ご本人が危機的な状況 (パニック) になった  
 ことがありますか。

過去 1 年間に、危機的な状況 (パニック) になったことがあるかについては、「ある」  
 (100.0%) となっている。



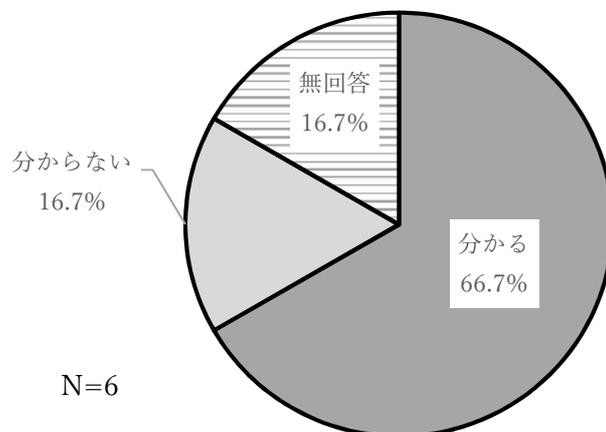
副問19-1 問19で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の状態が悪化したとき、具体的にどのような状態がより激しくなりましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような状態がより激しくなったかについては、「大声・奇声」・「破壊行動」(83.3%)が最も多く、次いで「自傷行為」・「多動」(66.7%)となっている。



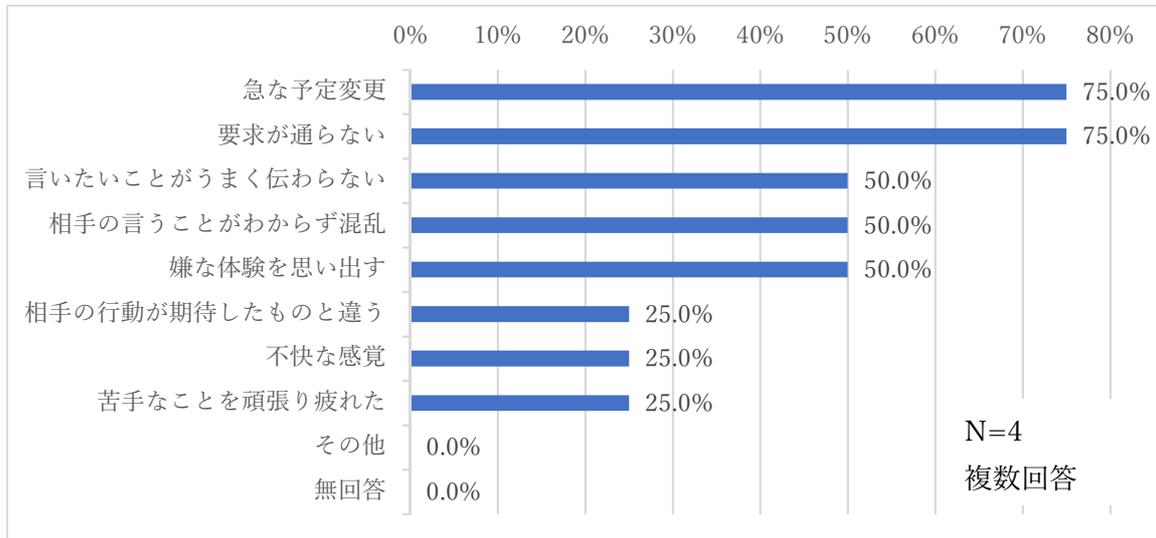
副問19-2 問19で「ある」と答えた方におたずねします。なぜそのような状態になったか、理由は分かりますか。

状態が悪化した理由については、「分かる」(66.7%)、「分からない」(16.7%)となっている。



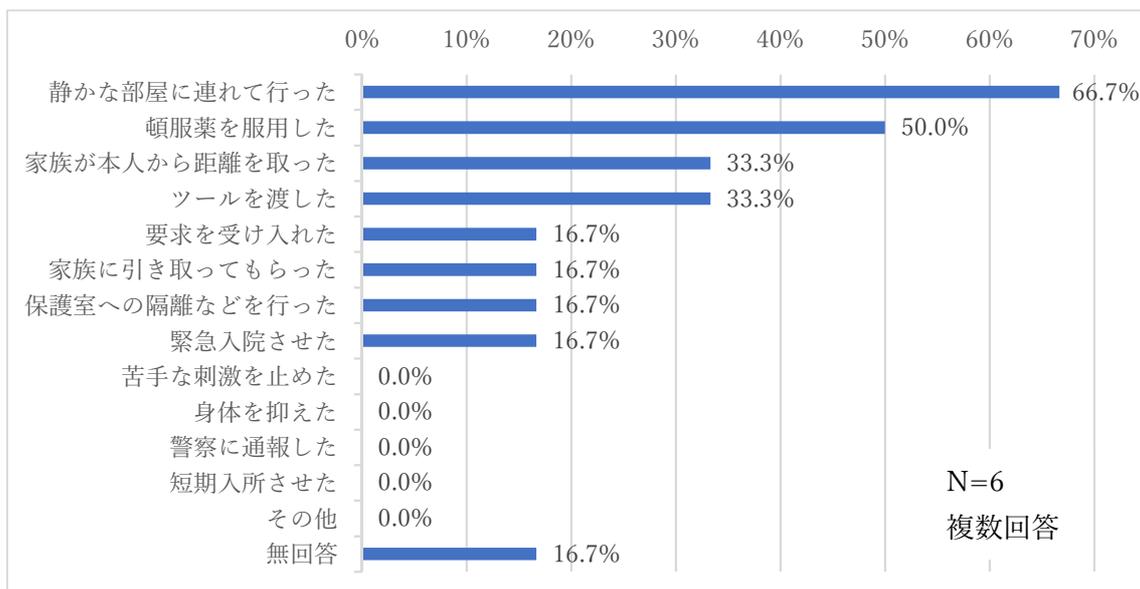
副問 19-2-1 副問 19-2 で「分かる」と答えた方におたずねします。主な理由は何ですか。当てはまるものを重要なものから3つまで選んでください。

状態が悪化した主な理由については、「急な予定変更」・「要求が通らない」(75.0%) が最も多く、次いで「言いたいことがうまく伝わらない」・「相手の言うことがわからず混乱」・「嫌な体験を思い出す」(50.0%) となっている。



副問 19-3 問 19 で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の危機的な状況（パニック）は、どのようにして収まりましたか。当てはまるものを3つまで選んでください。

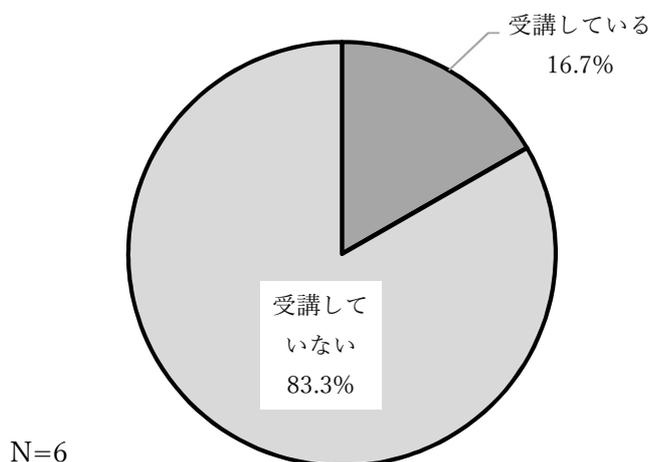
どのようにして収まったかについては、「静かな部屋に連れて行った」(66.7%) が最も多く、次いで「頓服薬を服用した」(50.0%)、「家族が本人から距離を取った」・「ツールを渡した」(33.3%) となっている。



【E 強度行動障害のある人への支援について伺います (その③ 人材育成について、今後の方向)】

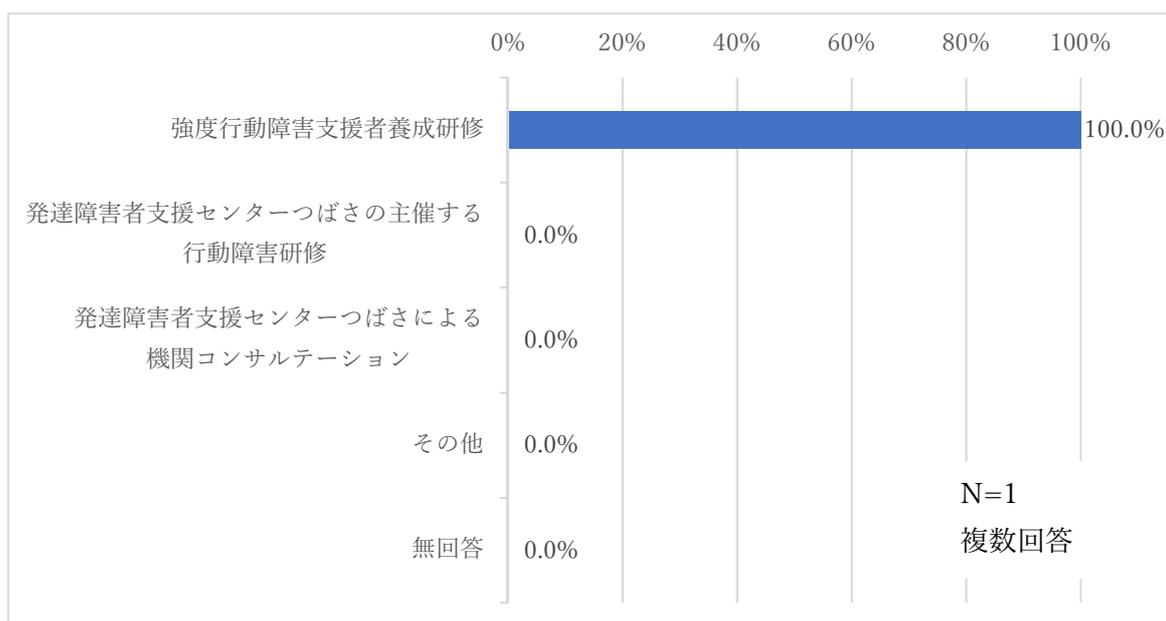
問20 貴院では、強度行動障害の支援に関する専門研修等を受講していますか。

専門研修等を受講しているかについては、「受講している」(16.7%)、「受講していない」(83.3%)となっている。



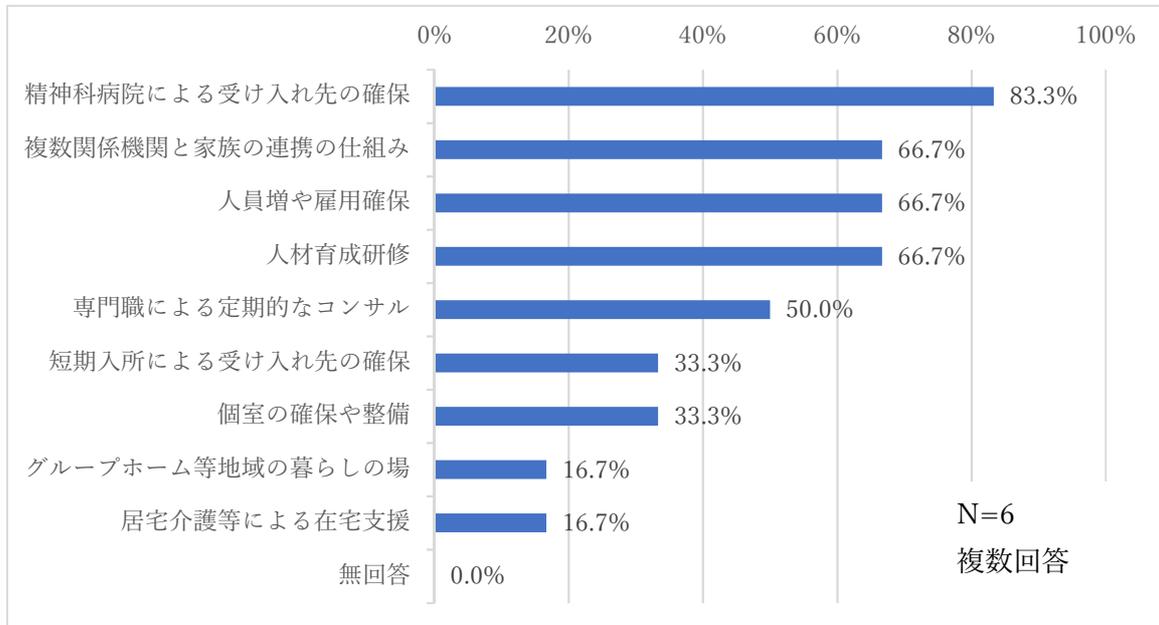
副問20-1 問20で「受講している」と答えた方におたずねします。どのような研修を受講されましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような研修を受講したかについては、「強度行動障害支援者養成研修」(100.0%)となっている。



問 2 1 強度行動障害のある人を支援するにあたり、どのような体制が必要だと考えますか。特に重要と思われるものを3つまで選んでください。

必要な体制については、「精神科病院による受け入れ先の確保」(83.3%)が最も多く、次いで「複数関係機関と家族の連携の仕組み」・「人員や雇用確保」・「人材育成研修」(66.7%)となっている。



【最後に発達障害者支援に関するご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください】

「〇〇に対して貴院では〇〇していますか」という設問がいくつかあったが、外来診療のみのクリニックでは、外来診察時に患児に直接働きかける部分は少ないため、「そのような場面での自宅での保護者の対応を指導する」と置き換えて回答いたしました。

当院はスタッフ数少なく対応困難です。

発達障害の診断基準や処方医の基準が厳しくなったため、関わり方が難しくなったと感じている。